

## 教職履修カルテ

フリガナ		
氏 名		
学部生記入欄	所 属	学部                      学科                      コース
	在籍期間	年 4 月 入学                      年 3 月 卒業(予定)
	学籍番号	
科目等履修生記入欄	所 属	学部                      学科
	在籍期間	年 月 から                      年 月 まで(予定)
	科目等履修生番号	

## 教職カルテ提出記録

No.	提出時期	確認印
1	2年生「教育心理学」初回授業時	㊟
2	3年生「特別活動の指導法」初回授業時	㊟
3	4年生「教育実習Ⅰ」初回授業時	㊟
4	4年生「教育実践演習」初回授業時	㊟

## 教職実践演習について

### 【教職実践演習の目的】

この科目は、教育実習を終えた学生を対象に、「教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な知識技能を確実に身に付けさせるとともに、その知識技能を明示的に確認することを目的とする」ものである。

### 【科目の概要】

① クラス編成

法学部・経営学部合同クラスで行う。

② 開講時期

4年生後期に開講。

③ 授業形態

演習形式で行う。

④ 授業目標

本科目では、まず教育実習経験を振り返ることで、教員としての各人の課題を自覚する。そのうえで、必要に応じて不足している知識やより一層の向上が求められる技能等を補い、次の4点の事項の向上・定着を目指す。

- ① 使命感や責任感、教育的愛情を持つ
- ② 社会性や対人関係能力を高める
- ③ 幼児児童生徒を理解し、学級経営などを行える
- ④ 教科内容等の指導力を高める

①～④の事項をそれぞれ達成し、最終的にそれらを自らの資質として統合することである。

⑤ 履修登録

4年生(教育実習実施年度)の教職科目の履修登録の際に行う。

⑥ その他

「教職実践演習」の履修登録を行うためには「履修カルテ」の作成及び提出が必須となる。

## 履修カルテについて

### 【目的】

学生が、自ら教職課程における学修状況を確認するために作成するものである。同時に、教員が学生各人の学修状況を把握するために参考とするものである。

### 【作成時期】

教職課程履修1年目から教員免許取得まで、継続して作成する。

### 【内容】

「1. 教職に関する科目の履修状況」、「2. 教科又は教職に関する科目の履修状況」、「3. 教科に関する科目の履修状況」、「4. 介護等体験に関すること」、「5. 教育実習に関すること」、「6. その他の教職に関連する活動等」、「7. 自己評価シート」、「8. 教職に関する科目のレポート」により、構成されている。

### 【作成の手順】

- ① 教職用 Mahara サーバから様式 (Word 形式; A4版) をダウンロードする。
- ② 必要事項を記入する。
- ③ 学期末ごとに、履修状況を記入する。
- ④ 学年末ごとに、自己評価シートを記入する。
- ⑤ 介護等体験、教育実習、教職に関連するボランティア等の活動についても、適宜、記入する。
- ⑥ 欄が足りなくなった場合は、各自、適宜に欄を増やすなどして使用すること。
- ⑦ 各自、学生支援課にあるファイルフォルダに、履修カルテ及び必要な書類を綴じる。  
※保存データが壊れても、問題が無いよう、毎年印刷してファイルすること。  
※印刷時期: 2年終了、3年終了及び、4年生前期終了後

### 【面接及び提出について】

- ① 2年生前期終了単位確定時から後期開始時までに履修カルテを提出する。面接については必要に応じて行う。
- ② 3年生前期終了単位確定時に履修カルテを提出する。面接については必要に応じて行う。
- ③ 4年生「教育実習ⅠⅡ」初回授業時に作成した履修カルテを提出する。内容を確認後、返却する。
- ④ 4年生「教育実践演習」初回授業時に、作成した履修カルテを提出する。成績判定後返却する。

### 【注意事項】

- ・ 履修カルテの提出がない場合、「教育実習ⅠⅡ」「教職実践演習」の履修は認められないので、十分注意すること。
- ・ 欄が足りない場合は、適宜、欄を増やして記入すること。

## 履修カルテ記入の仕方

## 1. 「教職に関する科目の履修状況」、「教科又は教職に関する科目の履修状況」及び「教科に関する科目の履修状況」について

履修した科目について、「単位数」「修得年度」「教員名」「修得状況」「学んだこと」「自己評価④(大変良い)③(良い)②(悪い)①(大変悪い)及び自己評価理由」を記入する。「修得状況」の欄には修得済み単位の成績「秀・優・良・可」のいずれかを記入する。履修していない科目については記入する必要はない。

## 1. 教職に関する科目の履修状況(その1)

(記入例)

法令上の区分	科目名	単位数	修得年度	教員名	修得状況	学んだこと	自己評価・根拠(達成度④③②①を含む)	備考
教職の意義等に関する科目	教職概論	2	2017	産経太郎	秀	教育について×××を学んだ……………	④・③・②・① 教育について×××を学ぶことができた。その証拠に～について高い評価を得ることができた……	必修

※ 「教職に関する科目」の「学んだこと」欄は **100字程度**で、「教科に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」の「学んだこと」欄は**1～2行程度**に要約して記入すること。自己評価・根拠については、**④③②①**で評価する。その際シラバスの到達目標を参照すること。

## 2. 「介護等体験に関すること」について

中学校の教員免許状の取得を希望する者は、「介護体験」科目取得が必須となる。「介護等体験に関すること」は、介護等体験が終了した段階で記入する。実習記録など規定の書類を添付する。

## 3. 「教育実習に関すること」について

「教育実習に関すること」は、実習予定校が決まった段階で実習校名などを可能な範囲で記入する。教育実習が終わった段階で、教育実習記録など規定の冊子およびファイルを添付する。

## 4. 「その他の教職に関連する活動等」について

教職課程研修交流講座、人権啓発講習会、学校ボランティアや学習支援員、部活動の指導など、教職に関連する活動があれば記入する。

## 7. その他の教職に関連する活動等

(記入例)

(大学関係)

名称	期間または年月日	場所	活動内容	学んだこと
教職課程研修交流講座	××年×月×日	宮崎産業経営大学×××教室	教職OB交流研修会 ××年度研究大会	×××……………

(その他)

スクールトライアル	××年4月1日 ～ ××年3月31日	××××中学校	××が不得意な生徒に対して、教員の指導のもと、授業補助を行った。	×××……………
-----------	--------------------------	---------	----------------------------------	----------

## 5. 「自己評価分析記録」について

各学年が終了する段階で、その学年での教職に関する学習過程について自己評価分析を行い**4(大変良い)・3(良い)・2(悪い)・1(大変悪い)**の4段階で達成度を評価する。

## 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」

法令上の区分	科目名	単位数	修得年度	教員名	修得状況	学んだこと	自己評価・根拠(達成度④③②①を含む)	備考
日本国憲法	憲法(統治機構)	4					4・3・2・1	法学部必修
	憲法概論 I	2					4・3・2・1	経営学部必修
	憲法概論 II	2					4・3・2・1	
体育	スポーツ総合A又はB	2					4・3・2・1	必修
外国語コミュニケーション	英会話 I	2					4・3・2・1	必修
情報機器の操作	コンピュータ管理演習	2					4・3・2・1	必修
	Webサイト構築演習	2					4・3・2・1	必修

## 1 教職に関する科目の履修状況

の区分	法令上	科目名	単位数	修得年度	教員名	修得状況	学んだこと	自己評価・根拠(達成度④③②①を含む)	備考
教職の意義等に関する科目		教職概論	2					4・3・2・1	必修
		教育原理	2					4・3・2・1	必修
教育の基礎理論に関する科目		発達支援教育概論						4・3・2・1	必修
		教育心理学	2					4・3・2・1	必修
		教育の制度及び行政	2					4・3・2・1	選択必修
		学校経営学	2					4・3・2・1	
		生涯学習論	2					4・3・2・1	選択
	教育課程及び指導法に関する科目		特別活動の研究(教職課程論を含む)	2					4・3・2・1
		( )教育法	4					4・3・2・1	必修

	( )教育法	4					4・3・2・1	必修
	道徳教育の研究	2					4・3・2・1	中学校必修
	教育方法・技術論	2					4・3・2・1	必修
生徒指導、教育相談及び進路指導 等に関する科目	生徒指導論 (進路指導を含む)	2					4・3・2・1	必修
	教育相談論 (カウンセリングを含む)	2					4・3・2・1	必修

教育実習	教育実習事前指導	2					4・3・2・1	必修
	教育実習 I	5					4・3・2・1	中学必修
	教育実習 II	3					4・3・2・1	必修
実践演習 教職実習	教職実践演習 (中・高)	2					4・3・2・1	必修







## 3 教科に関する科目の履修状況(その2)

科目名	単位数	修得年度	教員名	修得状況	学んだこと	自己評価・根拠(達成度④③②①を含む)	備考
						4・3・2・1	
						4・3・2・1	
						4・3・2・1	
						4・3・2・1	
						4・3・2・1	
						4・3・2・1	
						4・3・2・1	
						4・3・2・1	
						4・3・2・1	

注) 科目枠が足りない場合は、コピーして追加してください。

## 4. 介護等体験に関すること

中学校の教員免許状の取得を希望する者は、「介護体験」科目取得が必須となる。名称・期間などを記入後、このページのあとに、既定の介護体験記録を付けること。

それ以外の者は必須ではないが、受講する者は同様に記述すること。

体験先名称	期間	体験内容

## 5. 教育実習に関すること

学校名・期間など下記を記入後、このページのあとに、既定の介護体験記録を付けること。

(実習予定校)

学校名	所在地	実習期間	実習教科	備考

## 6. その他の教職に関連する活動等

(大学関係)

名称	期間または年月日	場所	活動内容	学んだこと

(その他)

名称	期間または年月日	場所	活動内容	学んだこと

## 7. 自己評価分析記録(学年度末ごとに評価のこと)

	必要な資質能力の指標		行動指標	自己評価		
	項目	指標	具体的行動例	1年生評価	2年生評価	3年生評価
教育について	教育に対する情熱・使命感	教育に対する情熱・使命感を高めるための努力をしている	教育現場の状況や教師の仕事、子どもたちの実態を知る機会を得て、教職への意欲を確認し、教師の仕事の役割を考えている	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	教育の重要性の認識	教育の重要性と社会的意義・責任を深く認識している	教育に関連する思想書、歴史書、伝記・評伝を読み、教育の現況について認識を深めている	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
授業力	教科教育に関する専門的知識	取得する免許に関する専門的知識を十分に有している	新聞や図書等から、幅広く教科に関する最新の知識を得るとともに、それを授業に生かすための仕組みを考えている	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	授業実践に関する力量	模擬授業やゼミでのプレゼンテーションなどを通じて授業実践に関する力量を高めている	講義時間での模擬授業だけでなく、授業外でも学生同士機会を作り、積極的に授業・プレゼンテーション・話し方などの訓練を行っている。また、学外の公開授業を積極的に参観している	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
生徒指導力	子どもとともに歩む姿勢	子どもを一人の人間として尊敬し、ともに成長する存在となることを目指している	子どもについて、心理学、教育哲学・思想、現場からの情報等に学ぶと同時に、人間として自己が成長するための取組を行っている	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	生徒とのかかわりの経験	学校ボランティア等を通じて、積極的に生徒と触れ合う機会を持つようとしている	スクールトライアル、学校ボランティア、学校インターシップ、特別支援学校行事への参加など、積極的に生徒とふれあう活動に参加している	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
社会人として	幅広い教養	一般常識を踏まえ、社会人として必要となる教養を身につけている	遅刻をしない、約束を守るなど当たり前のことができる。新聞を読み、読書を習慣化する等、社会人としての自覚と素養を身につける努力をしている	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	社会性と協調性を兼ね備えた人間性	他者と積極的に交流し、共同して作業を行うことができる	人と協調して、作業を円滑に行うことができる。グループをまとめ、活性化する行動を意識的に行っている	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

## 8. 教職に関するレポート

教職に関連して作成したレポートを、この後に付けなさい。